

小松駅の歩み

- 1897 (明治30) 年9月 • 北陸線 福井・小松間延伸開業に伴い、終着駅として「北陸線小松駅 (小松停車場)」が開設 今年で120周年
- 1898 (明治31) 年4月 • 北陸線 小松・金沢間開通 翌年には富山まで延伸
- 1907 (明治40) 年 • 遊泉寺銅山の軽便鉄道 (小松・遊泉寺間) が開通、1929 (昭和4) 年に旅客輸送として再び運行開始 [~1986 (昭和61) 年]
- 1907 (明治40) 年11月 • 動橋・小松間に「栗津駅 (栗津停車場)」が開業 今年で110周年
- 1919 (大正8) 年11月 • 尾小屋鉄道 (新小松・尾小屋間) の運行開始 [~1977 (昭和52) 年]
- 1932 (昭和7) 年10月 • 橋南の大火で小松駅舎が全焼。翌年2月には新築落成
- 1949 (昭和24) 年6月 • 日本国有鉄道法施行により運営を日本国有鉄道 (国鉄) に継承
- 1962 (昭和37) 年12月 • 栗津・小松間が複線化
- 1963 (昭和38) 年4月 • 福井・金沢間が複線電化
- 1966 (昭和41) 年3月 • 小松駅舎が完成
- 1987 (昭和62) 年4月 • 国鉄分割民営化により経営が西日本旅客鉄道 (株) (JR西日本) に
- 1988 (昭和63) 年10月 • 小松・寺井 (現・能美根上) 間に「明峰駅」が開業 来年で30周年
- 1997 (平成9) 年10月 • 小松駅付近連続立体交差事業に着工
- 2002 (平成14) 年11月 • 高架化が完了し切り替え。現小松駅舎が完成
- 2017 (平成29) 年4月 • 自動改札機の使用開始。ICカード「ICOCA」などが利用可能に



小松駅前 (昭和63年頃)



昭和7年の大火により建て替えられた小松駅舎 (昭和30年代)



小松停車場 (明治末期)



小松駅開業 120周年 小松の発展は駅とともに

特集に関する問い合わせ 広報秘書課 ☎24・8016



小松駅前 (昭和60年)



小松駅前 (昭和40年頃)



三八豪雪時の小松駅ホーム (昭和38年)

物流の新たな拠点が生れる

「停車場」が開業しました。開業当日は花火が上がリ、駅前に大アーチが建てられ、餅まきや芸妓の舞いなどの催しがあり、乗車する人や見送る人、見物人で大にぎわいでした。

めでたく開業を迎えた小松駅ですが、ルートが決定するまで大変だったといえます。北陸線はほぼ北国街道沿いに整備することが基準となっていました。当時は鉄道ができると稲の育ちが悪くなる、船運や人力車の仕事がなくなるなどといって、自分達の町に駅ができることに反対する運動もあったそうです。

ところが、北陸線の終着駅として営業が始まると、小松は鉄道景気で沸き上がりました。

土居原町は物資流通の集結地となり、運送業や宿屋は大繁盛。駅や旅館の前にはたくさんの人力車や荷物が並びました。九谷焼や畳表などの売れ行きも好調で、小松うどんを金沢に広めた大衆うどん店や菓子店なども盛況でした。

道路の拡幅のほか橋も架け替えられて、たくさんのモノと人が往来する活気あるまちが形成されました。

石川県内初の鉄道駅が開業

1897 (明治30) 年に開業した北陸線 (現JR北陸本線) 小松駅は、今年、開業から120周年の節目を迎えました。地域の産業や市民の暮らしと深く関わってきた小松駅の歴史を振り返るとともに、北陸新幹線小松開業に向けた駅周辺のまちづくりを皆さんと一緒に見ていきましょう。

明治前期、北陸3県の旧藩主の華族や資産家などによる鉄道構想が相次いで挫折した後、1892 (明治25) 年に鉄道敷設法が制定されたことを機に、ようやく北陸線建設が実現しました。

1893 (明治26) 年4月に敦賀から着工。日清戦争による人手不足や資材調達の困難、難関であった熊坂トンネルの採掘、手取川や梯川が氾濫した集中豪雨など、工事は苦闘の連続だったといえます。

1896 (明治29) 年7月の福井駅開業に続き、翌1897 (明治30) 年9月20日、小松までの延伸に伴い、県内初の鉄道駅「北陸線小松駅 (小松



ボンネット型特急電車
保存会事務局
岩谷 淳平さん

実家の近くに線路が通っていたことから列車に興味を持ち、子供の頃はよく小松駅や栗津駅に遊びに行っていました。列車に乗れば、1、2日で全国どこにでも行けると思うと夢がふくらみました。

小松市の鉄道の歴史をたどると、産業と深い関わりがあることが分かります。小松製作所の創立者である竹内明太郎は、遊泉寺銅山から小松駅まで線路を敷き、駅前に工場を建てることで物流のネットワークを確立したのです。小松駅からは工場につながる運搬用の線路までありました。

こうして駅を中心にモノが集まることで人も集まり、大型のショッピングセンターができるなど、まちの景色が急速に変化しま

した。昭和40年代頃になると鉄道から車社会へとシフトしますが、駅がまちづくりに大きく関わっていることは確かです。

これから北陸新幹線小松開業に向け、駅周辺がまた新しく変わると思いますが、南加賀の拠点としてより多くの人が集まる魅力あふれる駅になることを願っています。



▶土居原ボンネット広場の特急電車。「雷鳥」「しらさぎ」「はくたか」などで活躍した。

人・モノ、そして夢を運ぶ鉄道

インタビュー

産業や暮らしが豊かに。 駅を中心に広がるまちづくり

駅や鉄道は、ものづくりのまち小松の振興に大きな影響を及ぼしたほか、私たちの生活の利便性を高めました。また、人々の交流や出会いの場でもありました。駅周辺の様子は時代とともに変化し、現在のまちの姿につながっています。

小松駅開業を契機に、新たな鉄道構想が生まれました。

旅館業者などの運動により、1907（明治40）年、動橋・小松駅間に「北陸線栗津駅」が設置されました。1911（明治44）年3月には、栗津駅と栗津温泉とを結ぶ馬車鉄道が開通。その後電化も進み、大正期には年間10万人を超える浴客が訪れました。

1907（明治40）年には、(株)コマツの発祥の地である遊泉寺銅山と小松駅間に軽便鉄道が開通。閉山から9年程経った1929（昭和4）年から1986（昭和61）年まで、小松・遊泉寺間の旅客輸送として利用されました。

また、1919（大正8）年11月、尾小屋鉱山と新小松間に、鉱山の旅客と資材運搬を目的とした尾小屋鉄道が開業。全国屈指の銅の生産量を誇る鉱山に優秀な技術者が集まり、閉山後も小松の産業を支えました。1977（昭和52）年まで親しまれた日本最後の軽便鉄道でした。

鉱物以外にも特産であった絹織物や小松茶なども貨物便で出荷されていたといえます。更に、駅に隣接して工場ができ、鉄道は製品や部品の運搬に活用されました。駅の開業に

産業の繁栄と鉄道



昭和41年の小松駅東側。右は米原方本線、左は小松製作所への引き込み線。

人やモノ、文化が行き交う 南加賀のターミナル

より物流革命が起こり、鉄道は小松の産業の成長を力強く支えました。

昭和10年代以降、駅周辺には映画館やカフェができ、戦後復興の見通しがついてきた昭和24年頃から、商店街が形成されていきます。

1970（昭和45）年3月には、駅前に地下1階地上5階の防災ビル（こまビル）が開業。その後、百貨店の出店や商店街のアーケード完成など、市街地の活性化をもたらしました。商圏は拡大し、列車に乗って加賀全域から多くの人が訪れました。

また、駅を中心に市内外へとバス路線が張り巡らされ、南加賀のターミナルとして都市化が進んでいきました。



駅前大通り（現・れんが花道通り）
（昭和52年頃）

新幹線開業を見据えた まちづくり100年の大計

南加賀広域圏の中心都市として発展してきた小松市ですが、JR北陸本線が市街地を東西に分断していることによる交通の阻害や都市機能の低下が課題となっていました。

そこで、連続立体交差事業、駅東および駅西の土地区画整理事業の「駅周辺整備3点セット」を、国、県、JR西日本、市が協力して進めました。

10年の歳月と約600億円の事業費を掛け、2004（平成16）年3月に全ての整備が完了。鉄道高架により東西の交通はスムーズに流れ、全天候型の新駅舎や西口・東口の広場、バスターミナルなどが完成し、まちの顔が生まれ変わりました。



鉄道高架や新駅舎建設の工事が進むJR小松駅付近。列車は仮線を走行（平成12年11月）。



平成4年に開発された681系。後の「サンダーバード」。



平成14年に高架化された小松駅。寝台電車や急行型電車も近年まで走り続けた。



昭和39年登場の481系特急型電車。同47年に電車化された「白鳥」は大阪と青森を結んだ。



昭和38年登場の急行用28系気動車。「ゆのくに」「越後」「大社」「しろがね」「こがね」など。



昭和初期の旅客機の主力、C57型。貨物用D50型やD51型と共に使用。

なつかしの列車 フォトグラフ

技術の進歩により車両も進化。速度も上がり、移動時間は大幅に短縮されました。



駅周辺は夢をはぐくむ 学びと交流のエリアに

北陸新幹線金沢開業やその先にある敦賀延伸を見据えて、大交流時代をリードする拠点づくり、学びの場の創出に取り組んできました。駅南ブロックの開発も進み、まちの新しい形が見えてきました。

小松駅が ますます 便利に

JR小松駅には、今年4月から自動改札機やICカード乗車券「ICOCA」などが導入されました。電車の乗降はもちろん買い物などにも利用でき、来訪者や市民の利便性が高まりました。



(仮称) 市民交流ラウンジ

小松駅西口バスロータリー付近の高架下空きスペースに(仮称)市民交流ラウンジを設置します。バスや駅の待ち合い場所として利用できるやさしい空間に整備します。



高架下

The MAT'S
小松うどん道場つるっと
スケートパーク

駅東 科学と ひとづくり

古くからものづくりのまちとして発展してきた小松市。小松駅東エリアでは、サイエンスヒルズこまつやこまつ杜など、ものづくりの基礎となる理科や科学を学ぶことができます。

こまつ杜



サイエンスヒルズ こまつ



いろんな理科・科学の
体験教室をやっていて、
驚きや発見がいっぱい！

駅南 KOMATSU A×Z SQUARE



KOMATSU
A×Z SQUARE
(12月オープン)

民間事業者により小松駅南に建設中の複合ビルが12月に完成。ビルの名称が「KOMATSU A×Z SQUARE(こまつアズスクエア)」に決定しました。1階にはブックカフェやカブッキーランドが、2～3階には公立小松大学の中央キャンパスが、4～8階はホテルが入ります。オープンに併せて屋根付き通路の設置や駐車場からのアクセス向上などの整備を進めています。



土・日曜日でも育
て相談ができる場
所があるのは助か
りますね。



1階にできる カブッキーランド

親子が触れ合い、遊びを通して学ぶ「ボーンランド」や料理教室「ABCクッキングスタジオ」と連携した施設です。育児相談の対応や親同士の交流イベントも開催し、子育てママ・パパを支援する拠点として利用できます。

休館日 月曜日、年末年始

こまつ曳山交流館みよっさ



れんが花道通り



駅西 歴史と 伝統文化

小松駅西は、曳山子供歌舞伎や昔ながらの街並みが今も残り、歴史と伝統文化を感じるエリアです。旧北国街道の無電柱化や町家の活用など美しい景観づくりに取り組んでいます。



こまつ芸術劇場うら

古き良き町並み



お稽古や発表の
場が整っていて、
うれしいです。



みんなの夢を乗せて、
かがやく未来へ出発進行！

もし、この場所に駅ができなかったら、
モノや人の流れは変わり、
まちの風景も違ったものになっていたことでしょう。
小松駅の歴史は私達のふるさとの歴史でもあります。
そしてその歴史は、線路のようどこまでも続いていきます。
6年後の北陸新幹線小松開業を
120年前と同じように大きなチャンスにして、
新たな歴史を創っていきましょう。



運転シミュレータやSLの乗車体験などが楽しめる京都鉄道博物館



小まつもん駅弁
1,000円(お茶付き) 税込

後援：小松市、JR西日本／小松駅

小松駅開業120周年記念 京都の旅
とき 9月10日(日) 日帰り
集合時間 金沢駅：7時、小松駅：7時20分
旅行日程 金沢駅7時36分発→小松駅(7時57分発)→加賀温泉駅(8時09分発)→京都駅→京都鉄道博物館・京都水族館(自由行動)→京都駅(16時10分発)→加賀温泉駅(18時01分発)→小松駅(18時10分発)→金沢駅(18時26分発)
募集人員 200人(最少催行人員160人)
申し込み・問い合わせ (株)日本旅行 金沢支店 ☎076・293・6841

	金沢駅	小松駅、加賀温泉駅
大人	14,400円	12,700円
中学生	13,900円	12,200円
小学生	7,200円	6,350円
幼児(3歳以上)	6,900円	6,050円

【主な参考文献】

小松市制50周年記念誌(発行小松市)／『鉄路有情』金沢駅開業百周年記念誌(発行・菅中井安治)／新修小松市史10 図説こまつ(歴史(発行小松市)／新修小松市史資料編14産業(発行小松市))

小松にも新幹線時代が到来。 北陸で際立つ「国際都市」へ

2023年春に予定される北陸新幹線小松開業に向けて、駅やその周辺はまだ進化します。新幹線が停車するにふさわしい躍動するまちへ、市全体のブランド力を更に高めていきましょう。



小松駅と小松空港の連関

小松駅から車で約10分圏内に北陸の空の玄関口となっている小松空港や北陸自動車道小松インターチェンジがあるなど、充実した交通ネットワークは小松の強みです。

北陸新幹線小松駅が開業すれば、ビジネスや観光などで今以上に国内外からの人の動きが活発になります。駅と空港が一体となったまちづくりを進めることで、北陸のターミナルとして飛躍することが期待されます。優れたアクセス力を武器に、まちの魅力を更に高めて、北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」に磨きをかけていきます。

新幹線は新たな歴史の幕開け

昨年、北陸新幹線小松駅舎デザインのアイデアを募集し、基本コンセプトを「ふるさとの伝統を未来へつなぐ『かけはし』」に決定しました。歴史・伝統を取り入れたデザインやふるさと小松を回想できるデザインなどを構想中です。

市内では新幹線関連の工事もあり機運が高まってきました。これからの小松駅とその周辺がどう進化していくのか、まちづくりは次のステージへと進んでいきます。

地域に根差した、地域と共に成長していく駅に



JR西日本金沢支社
小松駅長
宮下 良和さん

小松駅開業120周年を迎え、長年、地域の皆さんに愛され、利用していただいたからこそ今があると感じています。

鉄道マンの使命は、安全・安定した運行でお客様の目的地まで送り届けることです。私達が同時に大事にしていることは心のこもったサービスです。降り立った



お旅まつりでは、小松駅管内の職員が勧進帳の三役に扮し、まつりを盛り上げています。

地の駅や駅員でまちの第一印象が決まるという気持ちで、再び小松に來たいと思ってもらえるよう、おもてなしの心で接しています。駅はお客様の人生と一緒に歩んでいます。子供の頃の家族旅行、修学旅行、通学、大人になってからは通勤、ご夫婦や子供との旅行など、皆さんの思い出や生活がより楽しくなるように、明るく笑顔になれる駅でありたいと思っています。

小松市には、曳山子供歌舞伎を始め石文化や九谷焼、温泉、食、那谷寺といったアピールできるものがたくさんあります。地域の皆さんや行政などと協力しながら、まちの魅力を広く発信し、今後も地域と共に成長していく駅を目指していきます。